

「指導と評価の一体化」のための学習評価（中学校保健体育科のポイント）

単元名
球技：ゴール型（サッカー）
第1学年

内容のまとめり
第1学年及び第2学年 「E 球技」

単元の目標の語尾は「～することができるようにする」

1 単元の目標

- 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性（や成り立ち）、技術の名称や行い方、（その運動に関連して高まる体力）（など）を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。
ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。
- 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- （球技に積極的に取り組むとともに）、（フェアなプレイを守ろうとすること）、（作戦などについての話し合いに参加しようとする）、（一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする）、仲間の学習を援助しようとする（など）や、健康・安全に気を配ることができるようにする。

本事例では、単元の目標は学習指導要領「2 内容」を踏まえ、第1学年及び第2学年の目標を全て記述した上で、「表1 A中学校における年間指導計画の例」の球技①～⑤の5回の単元設定の中から、①のサッカーにおける単元の目標を明示するため、他の単元で指導し評価する部分については、（ ）で示しています。

2 「単元の評価規準」の作成及び指導と評価の計画の作成

手順1 内容の取扱いを踏まえ、年間指導計画に各単元を位置付ける。

表1 A中学校における年間指導計画の例（第1学年及び第2学年抜粋）

学年	時間	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
第1学年及び第2学年	105	陸上競技(10) 陸上競技(10) 陸上競技(10) 陸上競技(10) 陸上競技(10) 陸上競技(10) 陸上競技(10) 陸上競技(10) 陸上競技(10) 陸上競技(10) 陸上競技(10) 陸上競技(10) 陸上競技(10)	① 球技・ゴール型 バスケボール・サッカー選択 2クラス2展開 (10)	水泳 クロール・平泳ぎのいずれかを含む2以上選択(10) *外部指導者のTTによる協力	武道 (柔道・剣道のいずれかを選択) 2クラス2展開(14) *外部指導者のTTによる協力	器械運動 マット運動(7) 球技(7) 球技(7) 球技(7) 球技(7) 球技(7) 球技(7) 球技(7) 球技(7) 球技(7) 球技(7) 球技(7) 球技(7)	② 球技・ネット型 バレーボール・テニス選択 2クラス2展開 (8)	陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4)	球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8)			
	105	陸上競技(8) 陸上競技(8) 陸上競技(8) 陸上競技(8) 陸上競技(8) 陸上競技(8) 陸上競技(8) 陸上競技(8) 陸上競技(8) 陸上競技(8) 陸上競技(8) 陸上競技(8) 陸上競技(8)	③ 球技・ネット型 バレーボール・バドミントン選択 2クラス2展開 (10)	水泳 クロール・平泳ぎのいずれかを2以上選択(10)	④ 球技・ベースボール型 ソフトボール① ソフトボール② 2クラス2展開 (12)	ダンス 創作ダンス(9) フォークダンス(9) 2クラス2展開 (18) *外部指導者のTTによる協力	⑤ 球技・ゴール型 ハンドボール・サッカー選択 2クラス2展開 (10)	陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4) 陸上競技(4)	球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8) 球技(8)			

表1 A中学校では、第1学年で①ゴール型、②ネット型、第2学年で③ネット型、④ベースボール型、⑤ゴール型を取り上げています。

手順2 2年間を通して、指導事項をバランスよく配置する。

図1 第1学年及び第2学年「球技」における2年間を見通した指導事項の配置の例

指導事項	① 球技・ゴール型										② 球技・ネット型								③ 球技・ネット型								④ 球技・ベースボール型								⑤ 球技・ゴール型																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
知識	●										●											●											●											●										
技能	●										●											●											●											●										
主体的に学習に取り組む態度	●										●											●											●											●										

学習指導要領の例示で示された2年間の指導事項について、表1に示した①～⑤の指導機会における実施時期や配当時間等を踏まえ、指導事項を意図的、計画的に配置することとしています。

生徒の実態、単元の特性を鑑みて、単元を超えて、複数回の指導機会を設定しています。また、運動の特性などその単元でしか指導できないものもあります。教科部会等で担当教員の共通理解が必要です。教科のカリ・マネを推進します。

●重点指導機会 ○複数回での指導機会 *評価対象とせず指導する機会

手順3 学習指導要領解説の例示等を基に、内容のまとまりにおける全ての「単元の評価規準」を設定する。

知識と技能を分けて記載します。

手順4 当該単元における「単元の評価規準」を設定する。

第1学年のゴール型(図1①)に配置された指導事項に対応した単元の評価基準(手順3の表2内の□)を設定します。

表2 第1学年及び第2学年「球技」の全ての「単元の評価規準」

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出ししたりしている。 学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、言ったり書き出ししたりしている。 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を挙げている。 球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。 	<p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 マークされていない味方にパスを出すことができる。 得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。 ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ボールを持っている相手をマークすることができる。 <p>※ネット型、ベースボール型は省略</p>	<ul style="list-style-type: none"> 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 作戦などについての話合いに参加しようとしている。 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 健康・安全に留意している。

手順5 当該単元における具体的な指導内容の明確化を図る。

単元の目標の実現には、具体的な指導を充実した上で「単元の評価規準」により評価を行うことが重要です。学習指導要領解説の記載等から、生徒の学習状況を実現するための具体的な指導内容を明確にします。

図2 具体的な指導内容と「単元の評価規準」

知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
知識	技能		
<p>ゴール型球技は、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを打ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うことが楽しい運動であること。</p>	<p>ゴール方向に守備者がいない位置に移動した時にシュートを打つこと。</p>	<p>成功例、つまずき例などの事例や、シュート、パス、キープのポイントを示し、仲間の動きと比較し、伝えること。</p>	<p>仲間の学習を援助することは、自己の能力を高めたり仲間との連帯感を高めて気持ちよく活動したりすることにつながるという目的に適した仲間との関わり方があること。</p>
<p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出ししたりしている。</p>	<p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p>	<p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p>	<p>①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p>
<p>ボール操作には、シュートやパス、ボールをキープする技術の名称があること。それらを身に付けるポイントがあること。</p>	<p>フリーの仲間を見付け、相手の動きに合わせてパスを送り出すこと。</p>	<p>活動時間の確保やグループの人間関係がよくなるといった目的を伝え、用具の準備や後片付け、記録や審判などの分担した役割における自身の活動の仕方を見付けること。</p>	<p>体調の変化などに気を配ること、ボールなどの用具の扱い方や、ゴールの設置状態、練習場所などの自己や仲間の安全に留意すること、技能の難易度や自己の体力や技能の程度に合った運動をすることが大切であること。</p>
<p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p>	<p>②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p>	<p>②健康・安全に留意している。</p>
<p>ボール保持者とゴールが見える位置に移動し、ボールを受ける準備姿勢をとること。</p>	<p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p>	<p>仲間の意見をしっかりと聞く、自身の意見を述べるなどの話合いへのマナーを提示し、参加の仕方を見付けること。</p>	
		<p>③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p>	

評価規準(□部分)が対応しています。

手順6 指導と評価の計画（10時間）を作成する。

<作成のポイント>

- ・指導場面と指導機会の関連を図ること
- ・指導したことを評価すること
- ・「努力を要する」状況と判断される生徒への指導の充実すること

図3 「球技」（ゴール型：サッカー）第1学年における指導と評価の計画の例

単元の目標		知識及び技能										
		知識及び技能	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や（成り立ち）、技術の名称や行い方、（その運動に関連して高まる体力）（など）を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。									
		思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。									
		学びに向かう力、人間性等	（球技に積極的に取り組むとともに）、（フェアなプレイを守るようにすること）、（作戦などについての話し合いに参加しようとする）、（一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする）、仲間の学習を援助しようとする（など）や、健康・安全に気を配ることができるようにする。									
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント	
学習の流れ	0	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動										<ul style="list-style-type: none"> ・三つの資質・能力の内容をバランスよく指導する。 ・動きの獲得を通して、知識の大切さを一層実感できるようにする。 ・汎用性のある知識を精選した上で、知識の学習を基盤とした学習の充実を図る。 ・ゴール前の空間の攻防をめぐる学習に、課題を追求しやすいうちにプレイヤーの数、コート広さ、用具、プレイ上の制限を工夫したゲームを取り入れる。 ・練習やゲームでは、即しやアドバイスを返すことができるようにし、学習の振り返りで質を高めていく。 ・仲間への助言や安全に留意する意義などの理解と具体的な取り組み方を結び付けて指導する。
	10	オリエンテーション	ボール操作	ボール操作の反復練習						ゲームIの修正	最終リーグ戦II	
20		シュートパストラップ	空間に走り込むなどの動き ボールとゴール	課題の確認と解決の練習 ボール空間に走り込む 課題伝達 役割見付け								
30		ボール慣れゲーム	シュートゲーム ゲーム記録の活用	グリッド突破ゲーム 仲間の即時の助言	簡易ゲームI 人数・コート・ルール等の簡易化			最終リーグ戦I	単元のまとめ			
40		整理運動・学習の振り返り・次時の確認										
50												
評価機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	評価方法
	知	①	(②)	(②)		②						総括的な評価
	技			①		②	③					
	思						②	①			③	
態		②		①							観察、学習カード	
単元の評価規準	知	①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。										
	技	②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。										
	思	①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートを出すことができる。										
	態	②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。										

図3の事例では

- 1時間目 ・小学校での学びの状況を確認するため、診断的な評価機会の設定をしています。
- 2時間目～9時間目 ・指導事項をバランスよく配置し形成的評価機会を設定しています。
- 10時間目 ・観点別学習状況の評価の総括的な評価を位置付けています。

2・3時間目に指導したボール操作の技能については、5時間目に「技②」の評価規準に基づき評価します。その際、「努力を要する」状況（C）と判断される生徒がいた場合は、個別の指導を行うなどの手立てを行い、単元の進捗とともにその変化を10時間目に最終確認することにしています。

また、図3の矢印で示すように、シュートであれば、2時間目に技術的なポイント（知識）の学習機会を設け、2時間目に練習時間を設定した上で3時間目に「技①」の評価を行います。さらに発見した課題について7時間目にシュートをテーマにした課題解決の場面を設け、知識や技能を活用して「思考力・判断力・表現力等」の学習や評価につなげることができるように指導内容の関連を図る工夫をしています。

3 観点別学習状況の評価の進め方（本事例における教師の評価補助簿の例）

<基本的な考え方>

- ・生徒一人一人の楽手状況を明らかにし、学習改善につなげる。
- ・教師の指導の成果や課題を明らかにする。
- ・指導場面に対して評価機会を検討し設定する。

※2

「知識・技能」の「知②」について、生徒ハは、5時間ではCの評価であったが、知識と技能を関連させて指導を行い10時間目の総括的な評価で「おおむね満足できる」状況が認められたことからBに変更した。

図4：評価補助簿の例

単元名 (学習活動に即した評価規準)	知	技						思			態	
		①		②		③		①	②	③	①	②
		①	②	①	②	③	①	②	③	①	②	
時数/10	1/10	5/10	3/10	5/10	6/10	7/10	6/10	9/10	4/10	2/10		
月/日	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0		
生徒イ			A	A	A	A			A			
生徒ロ			A									A B7/10 ※1
生徒ハ		C B10/10 ※2					✓ A10/10 ※3	A				A
生徒ニ				C B7/10 ※4								
— 略 —												
生徒ヒ				A				A				

※ 記載のないところは「B」としている。

※3

「思考・判断・表現」の「思②」について、生徒ハは、6時間ではBの評価であったが、10時間目の総括的な評価で「十分満足できる」状況が認められたことからAに変更した。

※4

「知識・技能」の「技②」について、生徒ニは、5時間ではCの評価であったが、課題解決の学習に取り組み7時間目の簡易ゲームで「おおむね満足できる」状況が認められたことからBに変更した。

※1

「主体的に学習に取り組む態度」の「態②」について、生徒ロは、2時間ではAであったが、用具の扱い方や練習場所の安全な位置取りなどの安全への留意が継続して「十分満足できる」状況と認められなかったことから、7時間目にBに変更した。

4 観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括の例

<参考> 5段階で評価し、評定への総括に備える例

※A°を5、Aを4、Bを3、Cを2、C△を1と設定しています。

表4 A中学校における年間指導計画の例(表1)を踏まえた第1学年1学期の総括時の検討例

単元名	体づくり運動		陸上競技		球技ゴール型		総括(平均値) <比率>		評定 (平均値)
時間数	4		10		10				
項目	評価	規準数	評価	規準数	評価	規準数			
生徒X	知	B B (3) (3)	2	A° A (5) (4)	2	A A° (4) (5)	2	A or B (4.00)	4 or 3 (3.72)
	技			B B (3) (3) A A° (4) (5)	4	B A (3) (4) B (3)	3	A or B (3.57)	
	思	A A (4) (4)	2	B B (3) (3)	2	A A (4) (4) B (3)	3	A or B (3.57) <xx%>	
	態	B (3)	1	A° A (5) (4)	2	B A (3) (4)	2	A or B (3.80) <xx%>	

あらかじめ、学校で基準を設定しておきます。

※本事例では体育分野に限定して考え方の例を示している。